

## 22 出合い、支え合いのなかで 教育から福祉へ

八木 昭二しやうじ  
（社会福祉法人ふたかみ福祉会理事長）



願いを運動につなげて……………

ふたかみ福祉会のスタートは、一九八七年、養護学校卒業を目前にした重複障がい児の「働きたい、友だちがほしい」との思いをかなえてやりたいとの願いをもつ親たちの働きかけが、月一回の日曜作業所となったことです。そのとりくみが、のちに「羽曳野に認可作業所を作る会（以下、作る会）」になりました。

私はそのころ養護学校高等部の教員で、長期休業期間の居場所をつくらうと、障がい児サマースクールや障がい者登山、発達保障の大切さを学びあう講座などの実行委員会に参加し、いろいろな先輩方に教えや影響を受けていました。前述の日曜作業所や作る会にも

参加するようになり、一九八八年に二名の無認可作業

所として、翌年からは市から土地を借り受け、七名での共同作業所羽曳野園がスタート。運営資金捻出と建設資金づくりに、作る会が中心にコンサートやバザーに映画会、駅前募金を何度も開催しました。組織も作る会から「認可作業所建設委員会（以下、建設委員会）」へ、そして並行して、「社会福祉法人ふたかみ福祉会設立準備会（以下、準備会）」が発会しました。

◆ 法人・認可施設をめざして…………… ◆

建設委員会はおもに運動面（広報活動、コンサートやバザー、募金活動等）を、準備会は事務的な面を進めていきました。資金面や土地のめどをつけ大阪府へ

の申請も進んだとき、いったん取れていた近隣住民の同意が白紙に戻る事態が起きました。準備会の代表であった京極與壽郎よしかげ じゆうろうさん（初代理事長）や建設委員会の井上重蔵いの上 じゆうぞうさん（二代目理事長）、羽曳野園職員の寺村美知子てらむらみ ちこさん（三代目理事長）と石本悦二いしもと えつじさん（現常務理事）を筆頭に、各地区委員や地区農業委員のもとを訪問し説明に回りました。そうして、一九九六年に社会福祉法人ふたかみ福祉会が設立され、羽曳野園は認可施設「はびきの園」としてスタートしました。

法人設立とともに建設委員会は解散となりましたが、これまでのチャリティー活動を通して培ってきた運動を継続していくことが、法人の将来への希望や力になっていくとの確信をもち、「ふたかみ福祉会後援会」ができました。この時も縁あって、初代会長を私が引き受けることになりました。その後、チャリティー活動や後援会などの活動をつづけています。振り返ると、三五年のうち、大半の時間をふたかみ福祉会と関わって、多くの人たちと出合い、学び、支え合いのなかで、今の自分があると実感します。

◆ 権利としての社会福祉の実現へ…………… ◆

羽曳野園からはびきの園に発展していくなかで「めざすもの」を、▼どんなに重い障がいを持っていようと

も、生き生きと働き生活もできる場にしよう。▼一人ひとりが、働くことや様々な生活体験を通して集団のなかで豊かに成長できる場にしよう。▼障がい者・家族・職員・関係者の意見を大切にする場にしよう。▼地域の方々と交流し理解されることよって地域福祉の発展に役立つ場にしよう。と決めてスタートしました。

二〇一一年には法人理念として「かがやく命を大切に  
する社会をつくります」を掲げ、この理念の根底には、人としての尊厳、遅い早いはある、どんな人でも同じ成長の道筋をたどる「発達保障」の考え、またそれは平和であってこそ守っていけるもの、という社会と権利保障の思いが貫かれています。これからもこの理念のもとに、「障害のある仲間を中心に」みんなが安心して暮らせる社会をめざしていきます。

この間、権利としての社会福祉はなおざりにされ、自己責任、助け合いを優先し公の責任は後回しです。経済性や効率性が優先される社会から、「だれでもどこに住んでも社会保障が権利として受けられる社会に」をめざして、日本国憲法を大切に、平和な社会がつづくことを願い、この仕事にとりこんでいきます。出合い、教えてもらい、支えてもらってできた多くの方々、これから力を合わせ支え合っていく仲間、家族、職員と共に、歩みつづけていきたいと思います。